

どがあり、その他では知る人ぞ知る「肥後ずいき」があります。これは、熊本ではどこでも売られていると思われがちですが、「子供のオモチャ」売場(!?)にはあるでしょうが、ほとんど目に付きません。聞くところによりますと、これは芋の茎で作られたもので、昔は非常食にも使われたそうです。名前だけが有名で、あまり実用的なものではないようです。皆さん、一度熊本へ遊びにいらっしゃい。いい所ですよ。(野口通信員)

●沖 縄●

Keep to the Left!

復帰最後の事業といわれる「交通区分の変更 730」が実施されました。沖縄の大作の日には雨というジンクスのとおり、大型台風の後遺症で、波浪警報等の中、県外より応援2800名、全部で3500名の警察官を動員して、特別交通規制をしき、道路標識・信号機など付け替え作業が夜のうちに終わりました。

「右と左のマーチ」「730音頭」などムードアップを図る歌のなか、去って行く車の右側通行を懐しむ、まるで大晦日のような雰囲気、あふれるばかりのヤジ馬が歩道橋から見まもりました。石垣島では、牛馬車の通行変更も行われ、のどかな光景もあったとか。気になる事故の



ほうは1日目に人身5件、物損77件、このうち、バス事故が49件、なかには飲酒運転により交通指導員が負傷する事故もありました。

沖縄支店では、本年2月から契約者サービスとして「安全運転のてびき」を自動車業務部の協力で作成配布し、好評を得ました。(谷通信員)

● 社内のニュース ●

補償制度研究会主催講演会

●安田火災記念財団

去る6月10日(土)午後3時から本社ビル38階第3会議室で、安田火災記念財団・補償制度研究会[メンバー：竹内東大教授(主査)、川井一橋大教授、西島法大教授、森島名大教授、落合成蹊大助教授、オブザーバー：当社職員7名、事務局：記念財団]主催の講演会が行われ、損保関係者等約70名が聴講しました。

この会では、ミシガン大学のグレイ教授が、「アメリカ法からみたCE条約案とEC指令案」と題し、製造物責任の世界的な動向と今後の展望について、赤松弁護士

の抄訳により約1時間半にわたって講演しました。補償制度研究会は、すでに数回研究会を開き、製造物責任法要綱試案等について研究活動を続けていますが、今回の会は、その活動の一環として同教授を招き、研究会を公開して行なったものです。講演に引き続き、パネル・ディスカッション形式で討議が行われ、ニュージーランド・スキームといわれるニュージーランド国営災害補償制度等もとりあげられ、活発な雰囲気の裡に午後6時閉会しました。



グレイ教授(左)と熱心なリスナー

ファイリング・インストラクター講習会開催

●総務部文書管理課

53年度、新任ファイリング・インストラクターの本社集合教育が、8月10日、11日の両日、本社39階第1研修室で行われました。

この講習は、人事異動で変更になった、支店のファイリング・インストラクターに対し、毎年、行われているもので、今年は9支店16名のインストラクターが出席し